

帰省先での子どもの誤飲事故に注意しましょう！

夏は小さい子どもを連れて祖父母宅などに帰省する機会が多くなる季節です。日本中毒情報センターの中毒110番では、8月に、祖父母宅で起きた子どもの事故の相談が増加します。

5歳以下の小児の祖父母宅での事故（2017～2021年）



子どもにとって祖父母宅は普段と異なる環境で、見慣れないものも多く、様々なものに興味を持ちます。一方で、普段、祖父母などの大人だけで暮らしている家庭では、子どもの誤飲事故に対して十分な対策がとられておらず、以下のような思わぬ事故に繋がることがあります。

- 「祖父母が服用するために机に出していた薬を子どもが飲んだ」
- 「台所の床に置いていたホウ酸団子を子どもが食べた」
- 「ソファにあった叔父のカバンから子どもがたばこを取り出して食べた」
- 「普段使っていない部屋の引き出しを子どもが開けて、中に入っていたボタン電池を飲んだ」

特に医薬品の誤飲の問い合わせが多く、大人の血圧降下薬、糖尿病用薬、催眠鎮静薬などは少量でも子どもには危険な場合があります。

- 事故防止には周囲の大人の協力が必要です。小さい子どもを連れて帰省する際は以下の点に注意し、楽しい時間を過ごしましょう。

- ・帰省する側は、子どもは身の回りにあるものを何でも口に入れること、特に医薬品は危険であることを、祖父母や親戚に事前に伝えましょう。
- ・子どもを迎える側は、誤飲する危険があるものを、子どもから見えない場所、またはイスや台を使っても届かない場所に保管しましょう。床に設置したホウ酸団子などは一時的に片付けましょう。
- ・子どもの滞在中は、周囲の大人が子どもの行動に気を配り、目を離さないようにしましょう。

事故が発生し、受診すべきか判断に迷った場合は中毒 110 番にご相談ください。

公益財団法人日本中毒情報センター 中毒 110 番電話サービス（一般向け）

- 大阪中毒 110 番（365日 24時間対応） 072-727-2499
- つくば中毒 110 番（365日 9時～21時対応） 029-852-9999

本資料を引用又は使用して資料作成・報道等を企図される場合は、必ず事前にその内容について日本中毒情報センター（本部事務局 電話：029-856-3566）の承諾を得、「公益財団法人 日本中毒情報センターの調査による」旨明記して下さい。